保証書

この製品は優れた技術と品質管理によって製造されております。
万一 保証期間中に発生した不具合に対し、下記規定に基づいて保証をさせて頂きます。

品　　名	無煙薪ストーブ
型　　式	MD30K・MD70K
保 証 期 間	お買上げ日より１年間
お買上げ日	年　月　日

※お買上げ日の証明になりますので
送り状との保管をお願い致します。

お客様	ご芳名 ご住所 お電話　（　　）
販売店名・住所・電話番号	印

1. 取扱説明書に基づいた正常な使用により、万一材質上または製造上の不具合が生じた場合は、本保証書により無償で新品と交換、又は修理致します。
ただし以下の理由、又はこれに準ずる理由により生じた故障については、保証は適用されません。
   a 取扱い上の不注意・誤った使用方法・保存上の不備による破損。
   b 天災・地変によって原型を失ったもの。
   c 弊社の指定した事業所以外で行われた修理・改造による破損。
   d 本来の使用目的以外に使用して破損したもの。
   e 使用に伴う部品の消耗は保証が適用されません。
2. 運賃諸経費は原則としてお客様にてご負担願います。　（製造上の不具合は除く）
3. 使用中に発生した故障以外に起因する付随的傷害については保証致しません。
4. 保証の適用されない故障・保証期間後の故障は、有償修理致します。
5. 本証は再発行致しません。

お客様へお願い
※　下記の場合は返品できません。
①一度使用したもの　②納入後２週間経過した場合　③故意又は過失により生じた損傷品

202203

地球にやさしく
プラスチックゴミを燃やすと
黒煙とダイオキシンが発生するので
ゴミステーションに出しましょう

株式会社 モキ製作所
長野県千曲市内川 96
TEL (026) 275 2116
FAX (026) 275 2169

アンケートへご協力をお願いいたします
ご回答いただいた方の中から抽選で10名様へ
QUO カード 2000 円分をプレゼントいたします。

アンケートはこちら
https://forms.gle/Ug9uDTaGjvCyCugk7

MOKI　燃焼哲学®

無煙薪ストーブ

MD30K　MD70K

取扱説明書

日本　ドイツ　アメリカ　中国　特許
文部科学大臣奨励賞受賞

この度は、MOKI 薪ストーブ燃焼哲学を
お買い上げ頂き誠にありがとうございます。
快適で安全にお使い頂く為に、
ご使用前と時折は本書をお読み下さい。

1. 安全上のご注意
2. 各部名称
3. 使用方法
4. 煙突掃除
5. 保守
6. Q＆A
☆保証書

高温燃焼の結果
表面温度 500℃

鋼板製で温度上昇が早い
全周溶接にて耐久性 抜群

MD30K

木資源の燃料化
株式会社 モキ製作所

1. 安全上のご注意

※ご使用前のお願い

初めて火を入れる際は塗料が焼き付き、ストーブ表面から煙が出ますが不具合では御座いません

煙と共に臭いが発生しますので屋外で事前に焼き付ける事をお勧めします

（目安：表面温度　350℃　1時間位）

屋内設置後に焼き付ける場合は十分に換気をして下さい

※弊社ストーブは品質向上の為、出荷前に塗装の焼き付けを行っておりますが
完全に焼き付くまでの間、煙は出ますのでご了承下さい

警告　死亡や負傷を負う恐れの有る内容です

・本体及び煙突の設置は建築基準法及び消防法に従い、安全に設置して下さい
・異常、故障時は直ちに使用を中止して下さい
　特に本体及び煙突から炎が出たり破損がみられる場合
・高気密住宅の場合は外気吸気口が必要です
・本体と可燃物は 45 センチ以上離し、遮熱板を入れて下さい
・年に 1 回以上　煙突掃除と点検を行って下さい
　　煙突内に 5 ミリの煤やタールが付着した場合は必ず煙突掃除を行って下さい
　　そのまま放置しますと煙道火災がおきる可能性が有ります
・万一煙道火災が発生した場合は、空気調節口とドアを閉めて消化器を準備し
　冷めてから掃除を行って下さい
・灰の処理は火の気がない灰を金属容器に 3 日以上入れ、冷めてから処分して下さい
・着火および燃料としてガソリン・灯油・ガス・アルコール等を絶対に使用しないで下さい
・本体の近くにガソリン・灯油・アルコール・ライターやスプレー缶などを絶対に
　置かないで下さい
・本体を不安定な場所に設置しないで下さい
・本体及び煙突に過度な力を与えないで下さい
・お子様やペットをストーブに近づけないで下さい　火傷の危険があります
・本体を無断で改造しないで下さい

注意　傷害を負う事や、財産の損害が発生する恐れが有る内容です

・薪の投入時は革製グローブか木綿軍手を使用し、火傷に注意して下さい
・乾いてない薪を使用しないで下さい　煤やタールが煙突に付着します
・燃焼中に液体をかけると破損の恐れが有ります

※変形と酸化の恐れが有ります
　本体・煙突を赤くしない様ご注意下さい
　茂木プレートの下で燃やさないで下さい

6.Q&A

こんなとき	原　　因	対　処　方　法
薪が燃えない	薪の乾燥が不十分	6～12ヶ月乾かした薪を使用して下さい
	焚き始めから太い薪を使用	焚き付けは細い薪を使うと着火が容易です
	空気調節板が閉じている	空気調節板を開けて下さい
	煙突が煤で詰まっている	煙突の中に煤が 5 ミリ以上付着の場合は煙突掃除をして下さい
	新聞紙で着火している	ボール紙を沢山使い着火して下さい
	横引に対し外の立上が短い	横引の長さの 1.5 倍以上必要です 状況により 2 倍必要な場合もあります
	薪の量が少ない	薪の量を増やし勢いよく燃やして下さい
煙が逆流する	手前で着火している	中心より奥で着火して下さい
	煙突が煤で詰まっている	煙突の中に煤が 5 ミリ以上付着の場合は煙突掃除をして下さい
	煙突トップ付近に上向きの風	煙突を 1m ほど延ばして下さい
	横引に対し外の立上が短い	横引の長さの 1.5 倍以上必要です 状況により 2 倍以上必要な場合もあります
	高気密住宅である	窓を開け空気を取込んで下さい 又は外気導入口を設置して下さい
	近くで換気扇が廻っている	換気扇を一時止めて下さい
	上記「薪が燃えない」の欄を参照	
ストーブが熱くならない	薪の量が少ない（低温燃焼）	薪を増やして下さい
	空気調節板が閉じている	空気調節板を開けて下さい
	空気調節板の開けすぎ 熱が煙突から逃げてしまう	空気調節板を絞って下さい
	上記「薪が燃えない」の欄を参照	
煙突先端から灰が舞う	茂木プレートの奥で薪が燃焼	茂木プレートの前で燃やして下さい
ストーブ表面から煙が出る	塗料が焼ける為です	初回使用時のみです　換気をして下さい
焚き口から逆火	消火直後に焚き口を開いた	消火後 10 分は焚き口を開けないで下さい

4. 煙突掃除

煙突掃除と点検は年に１回以上行って下さい

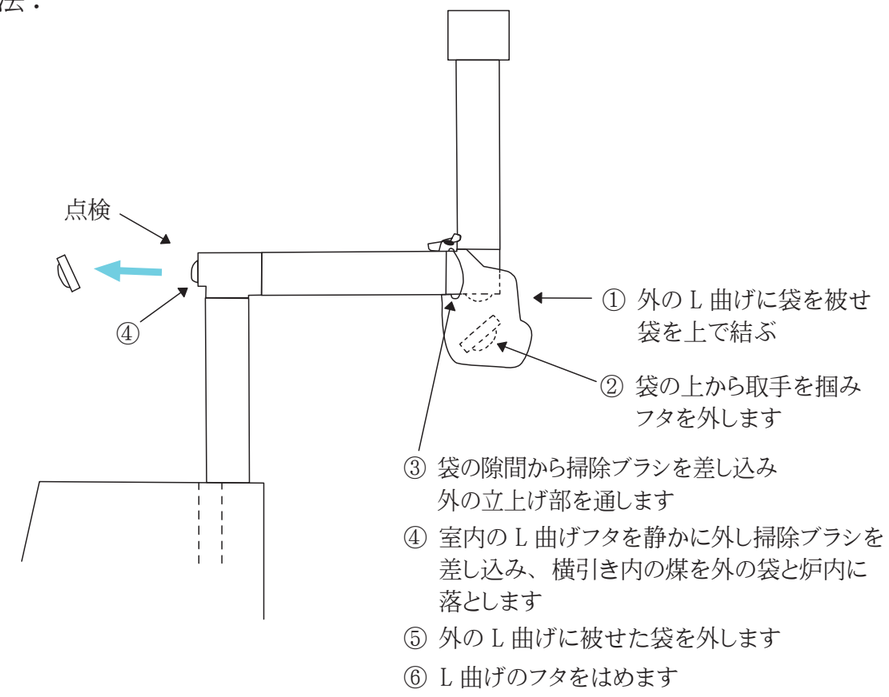
煤やタールは掃除ブラシ（別売り）を通して取除いて下さい

※煙突火災防止の為　煙突内に５ミリの煤やタールが付着しましたら
必ず行って下さい

壁出しの場合

点検方法：取手付きL曲げのフタを取外し　内部を確認します

掃除方法：



屋根出し（点検口なし）の場合

Ｐトップを外し上から掃除ブラシを差し込みます

※高所での作業ですので、業者に依頼することをお薦めします

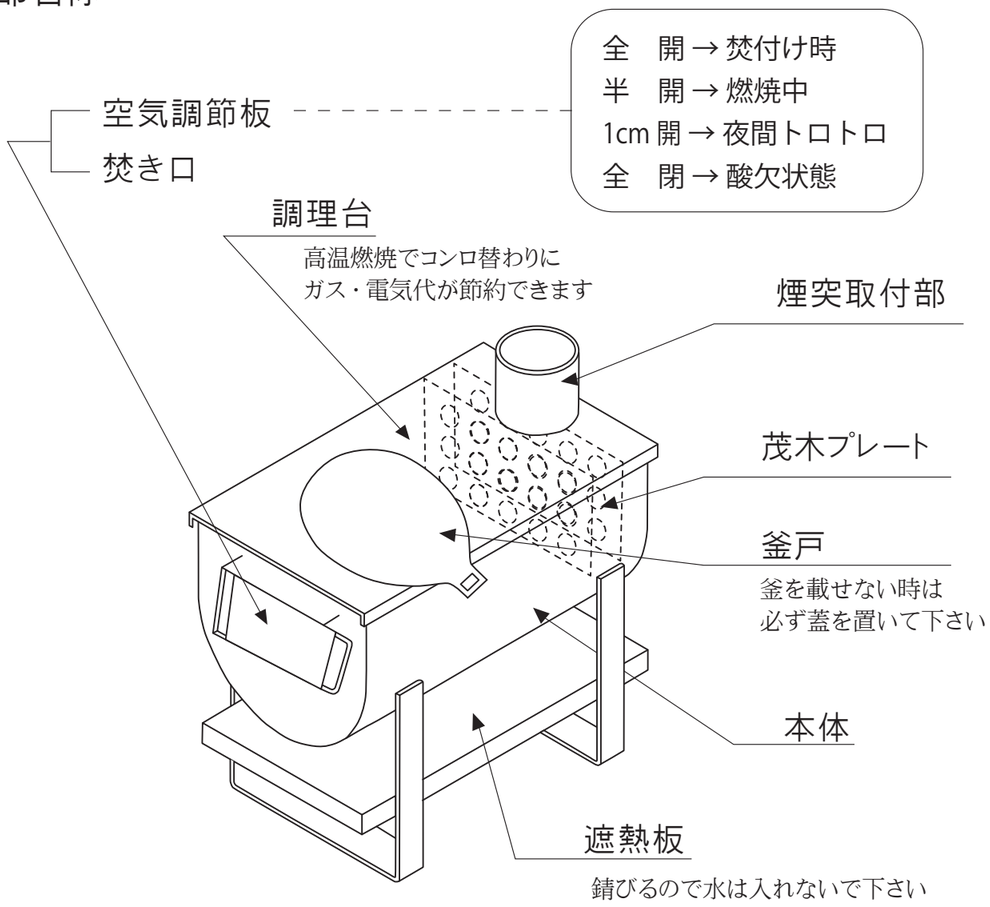
5. 保守

・煙突点検と掃除は少なくとも年１回は行って下さい

・ストーブ表面の錆びは紙ヤスリをかけ、別売の耐熱塗料スプレーを
塗付して下さい

※ストーブが冷めている状態で行って下さい

2. 各部名称



仕　様

形　　式	MD30K	MD70K
穴　　径	24cm	28cm
寸　　法	L550×W300×H500 mm	L692×W400×H600 mm
重　　量	29kg	52kg
最大薪長さ	30cm	45cm
煙　突　径	120φ	120φ
付　属　品	灰取り・カギ棒	

3. 使用方法

3-1, 準備

※6 ～ 12 ヶ月乾かした薪を使用して下さい　水分 20% 以下

※初回ご使用時は塗料が焼付く為　煙が発生しますので換気を行って下さい

※初回ご使用時は蓄熱の為　炉内に 3cm 程の灰を敷いて下さい

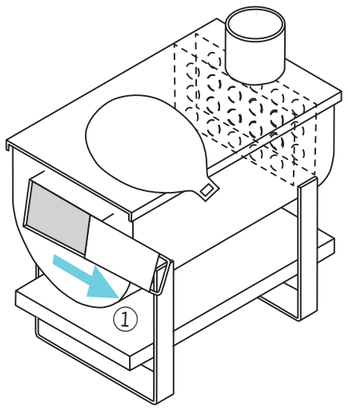
灰が無い場合は段ボールを重ねて敷いて下さい

ただし　茂木プレートの下は隙間を開けて下さい

3-2, 着火 / 燃焼

①焚き口を全開にし

かまどの蓋を載せます



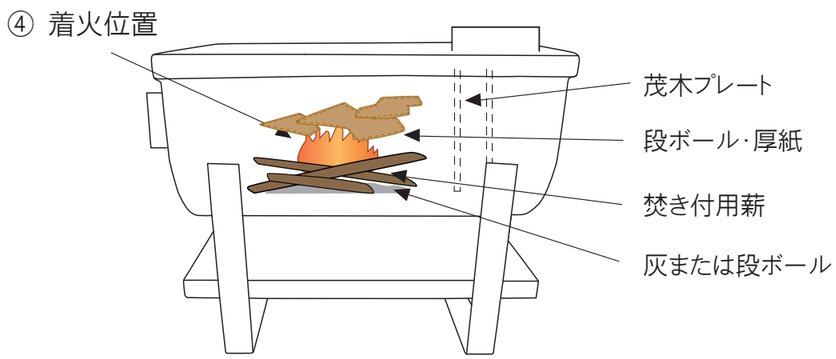
②焚き付用の細めの薪を 5 本位入れます

③薪の上に段ボール紙または厚紙を 15cm 位に千切り

4 ～ 5 枚重ならないように入れます

④ライターまたはマッチで焚き口と茂木プレートの中ほどで

段ボール紙・厚紙に着火します



⑥焚き付用薪が燃え出し炎が上がるまで焚き口を全開にしておきます

⑦焚き付用の薪が十分燃えましたら太い薪を入れ、その薪に火が点くまで

焚き口を半開にします

⑧太い薪に火が点きましたら焚き口の開きと薪の量で火力を加減します

ご注意

※最初の火入れは徐々に行って下さい

急激な加熱は塗装を傷める事があります

焚口扉を全開または半開で長時間燃やさないで下さい

ストーブ本体が赤くなり危険です

薪は 3 ～ 4 本入れて下さい

1 本では燃焼温度が上がらず煙発生の原因となります

3-3, 消火

薪ストーブは急な消火は出来ません

消火の 2 ～ 3 時間前には薪の投入を止め燃え尽きるようにして下さい

◎緊急に消火が必要な場合

焚き口をしっかり閉じて下さい

ご注意

緊急に消火した場合はストーブ内に可燃ガスが充満しますので焚き口は

しばらく開けないで下さい　(逆火現象が発生する恐れが有り危険です)

3-4, 灰の処理

ストーブ内には　蓄熱材として必ず 3cm 残して下さい

付属の灰取りを使用し金属容器に入れ完全に冷えていることを確認後

処分して下さい

灰は有益な加里肥料になります